

新除草・調節剤

使用上の注意：当年植えの弱い苗木および温州以外の雑柑幼木には、多少薬害の危険があるので注意する。また、防風樹に対しても薬害の危険があるので注意する。降雨前後の使用は、効果を減退させるので使用をさけること。なお、本剤は劇物であるから、取扱い、散布にあたっては充分に注意すること。

カソロン G D B N 粒 剤

(取扱メーカー) クミアイ化学工業株式会社

北興化学工業株式会社

対象作物：リンゴ

性状・作用特性：本剤は、2,6-ジクロルベンゾニトリル (DBN) を 6.7% 含有する粒剤である。本剤の特徴は、水などを使用することなく、そのまま散粒でき、非常に省力的なこと

である。作用特性は、非ホルモン移行型の土壌処理剤で、イネ科・広葉雑草を問わず、非選択的に有効で、従来防除の困難であったヤブガラシ・ギンギシ・ヨモギ等の広葉宿根性雑草にもすぐれた効力を有する。効果の発現は、遅効的であるが、再生抑制力が極めて強く、春期に 1 回処理することにより、50～90 日間は再生を防止するもので、永久除草剤として使用される。また、果樹に対する薬害は、ほとんどないとされている。人畜毒性も、マウス急性経口毒性で $LD_{50}=6,810 \text{ mg/Kg}$ と低く、安全性が高い。

使用方法：10 アール当り 8～12 Kg (製品量) を春期 (雑草の生育初期) に散粒機または手まきにより、土壤に均一に散布する。

使用上の注意：本剤は、雑草の発芽～生育初期の処理が最も効果が高いので、処理時期が遅れないように注意する。

編 集 後 記

「暑い寒いも彼岸まで」といわれているが、たしかに彼岸を過ぎると暖かい日が続くようになる。

野辺の雑草も、春の訪れとともに、種子発芽し、成長を始める。これらの雑草防除の研究に、日夜努力している研究者各位は、今が最も多忙な時期であることと思う。これらの研究の参考になれば幸いと、当誌の編集に全力を傾けてきたが、どうも思うように進行しない。今後は、雑草防除研究関係者よりのご意見を大に取り入れ、編集内容を充実してゆきたいと思うので、どしどし建設的なご意見をお寄せいただきたい。

なお、第 3 巻よりは、装いを新たにし、皆様の前に出現したいと思うので、何とぞご支援を。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町 26 番地

電話 東京(03)502-4188～9 番

昭和 44 年 3 月発行

植調第 2 巻第 8 号 ¥70 (送料 35)

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 河田 党

発行人 植調編集印刷事務所 田口 宏

東京都豊島区池袋 7 丁目 2,040 番地

発行所 植調編集印刷事務所

電話 (986) 1068 番